

第5回 旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮設計活用等検討委員会

日時 平成28年12月22日（木）
17時00分～
会場 札幌市役所本庁舎地下2階
1号会議室

次 第

- 1 開 会
- 2 今後のスケジュールについて（資料-3）
- 3 工事工程について（資料-4）
- 4 展示及び内部サインについて（資料-5）
- 5 今後の検討事項について（資料-6）
- 6 地域住民説明会の開催について（資料-7）
- 7 閉 会

<配布資料>

- ・ 資料-1：委員名簿
- ・ 資料-2：座席表
- ・ 資料-3：今後のスケジュール
- ・ 資料-4：工事工程表
- ・ 資料-5：展示及び内部サイン検討案
- ・ 資料-6：今後の検討事項について
- ・ 資料-7：地域住民説明会の開催案

（参考資料-1）：旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮保存改修設計図

（参考資料-2）：旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮活用方針

旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮設計活用等検討委員会

委員名簿

(委員長・副委員長以下外部委員五十音順・敬称略)

氏名	分野	所属等	備考
◎委員長 小澤 丈夫	空間計画	北海道大学大学院工学研究院 教授 文化財保護審議会委員	
○副委員長 平井 卓郎	木造建築構造	北海道大学名誉教授	
池ノ上 真一	歴史的建造物活用	北海道教育大学函館校国際地域学科 講師	
角 幸博	文化財建造物	北海道大学名誉教授 文化財保護審議会委員	
川上 佳津仁	行政	札幌市市民文化局文化部長	

(オブザーバー)

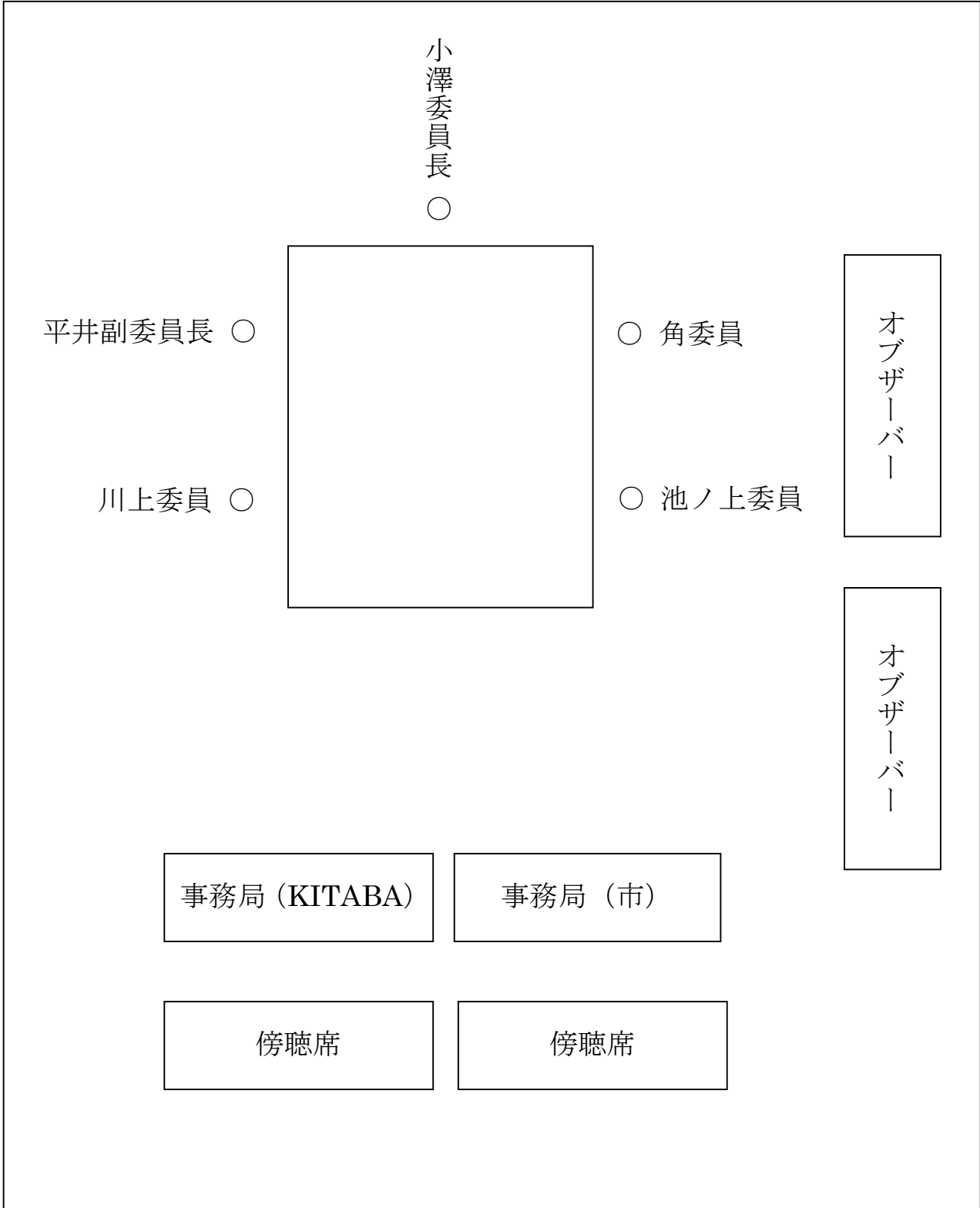
所属等	備考
北海道教育庁 生涯学習推進局文化財・博物館課文化財保護グループ	
北電総合設計株式会社	
ムトウ建設工業株式会社	
株式会社ディージェーワールド	
札幌市都市局建築部建築工事課	
札幌市中央区土木部維持管理課	

(事務局)

所属等	備考
札幌市市民文化局文化部文化財課	
株式会社K I T A B A	

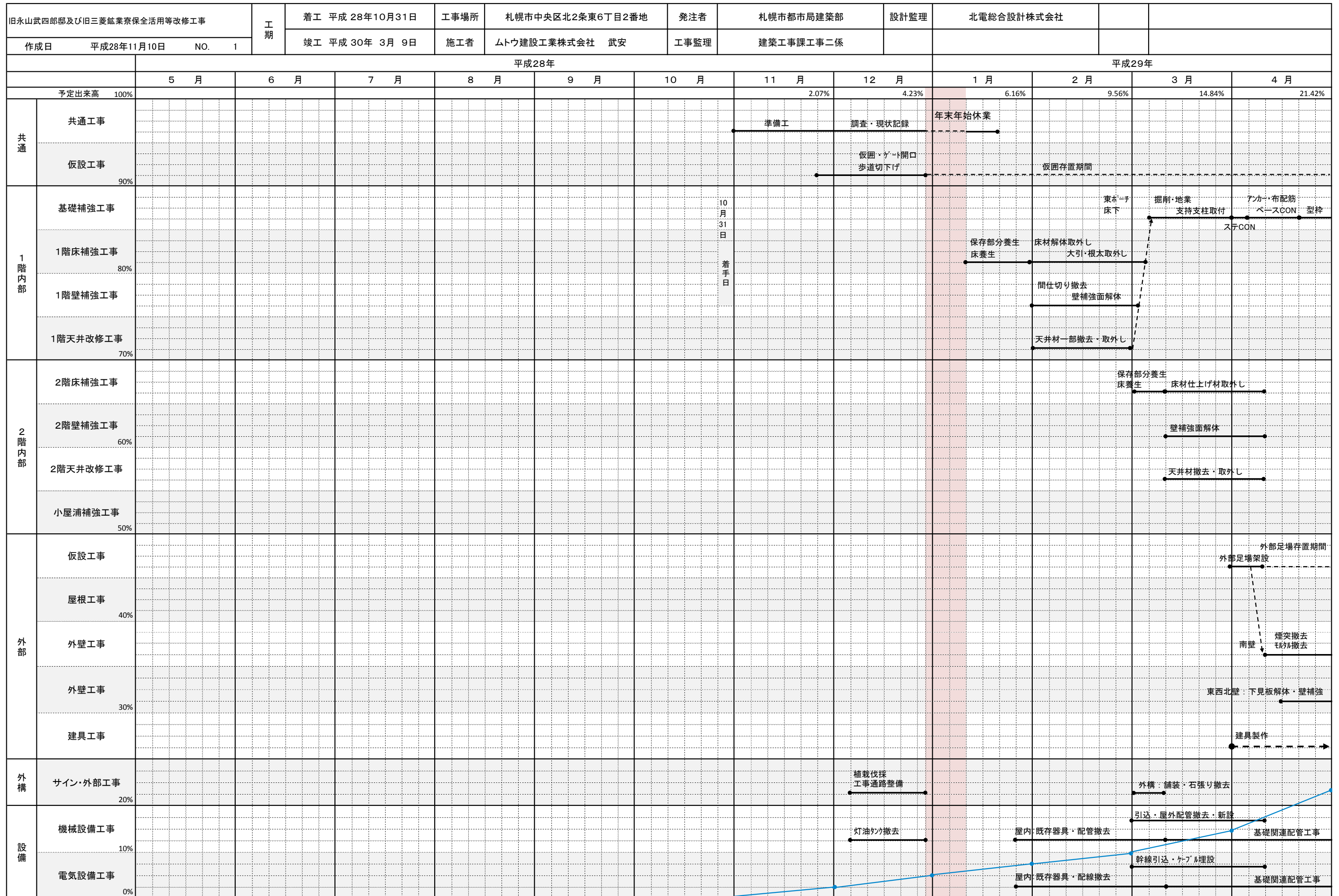
旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮設計活用等検討委員会

座席表

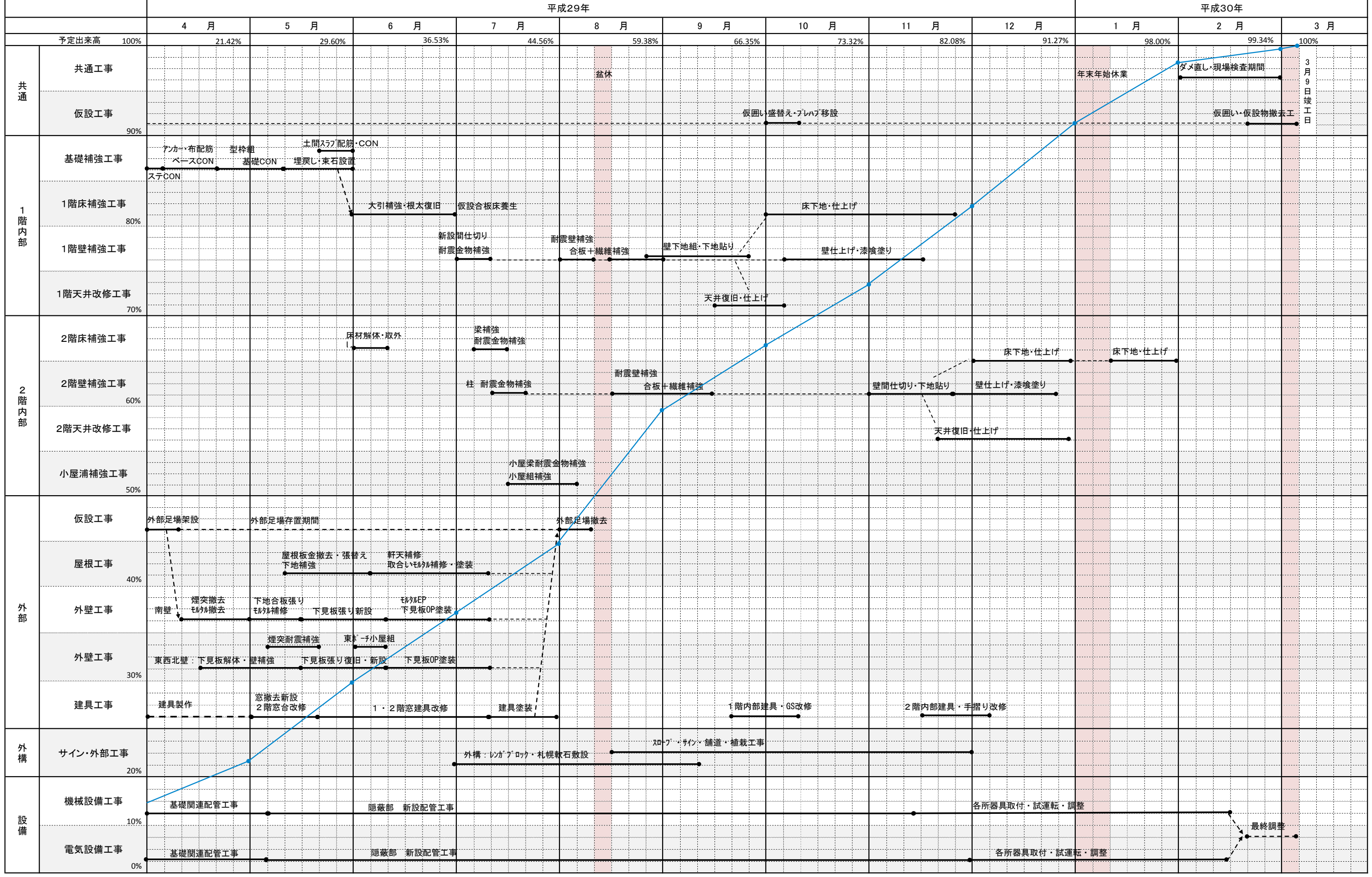


旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮保存活用事業スケジュール

業務内容/年度	H28年度					H29年度												H30年度				
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月		
事業全体	● 工事着工	● 第5回検討委員会	● 第6回検討委員会	● 地域住民意見交換会（予定）	● 第7回検討委員会	● 地域住民意見交換会（予定）	● 条例制定	● 展示設計整備発注（予定）	● 第1回指定管理者公募 ● 第1回指定管理者選定委員会	● 指定管理者現地見学会・質問受付	● 地域住民説明会（予定）	● 第2回指定管理者選定委員会		● 指定管理者指定		● 指定管理者協定締結	● 工事竣工	● 展示・備品整備	● 指定管理者管理運営開始	● 飲食事業準備		● リニューアルオープン（仮）
検討委員会	H27.6～H28.3																					
保存活用工事	H27.10～H30.3																					
公園	実施設計					工事																



旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮保全活用等改修工事	工期	着工 平成 28年10月31日	工事場所	札幌市中央区北2条東6丁目2番地	発注者	札幌市都市局建築部	設計監理	北電総合設計株式会社		
作成日 平成28年11月10日 NO. 1		竣工 平成 30年 3月 9日	施工者	ムトウ建設工業株式会社	工事監理	建築工事課工事二係				



旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮 展示サイン検討資料



2016/12/22

1. 展示及び内部サイン計画スケジュール	・・・ 2
2. 検討内容	
(1)展示及び内部サインの前提となる考え方	・・・ 3
<small>展示・サイン構成案の検討</small>	
(2)ハードウェア計画	・・・ 4
<small>展示・サイン空間構成の検討</small>	
(3)ソフトウェア計画	・・・ 4
<small>展示・サイン手法・演出方法の検討</small>	
(4)運用計画	・・・ 4
<small>展示・サイン計画資料の作成</small>	
3. サインデジタル化に関し、 機器・コンテンツの具体例として	・・・ 5

1. 展示及び内部サイン計画スケジュール

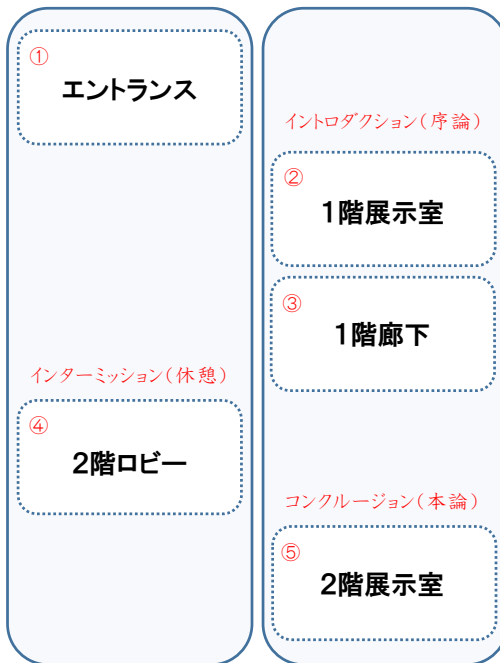
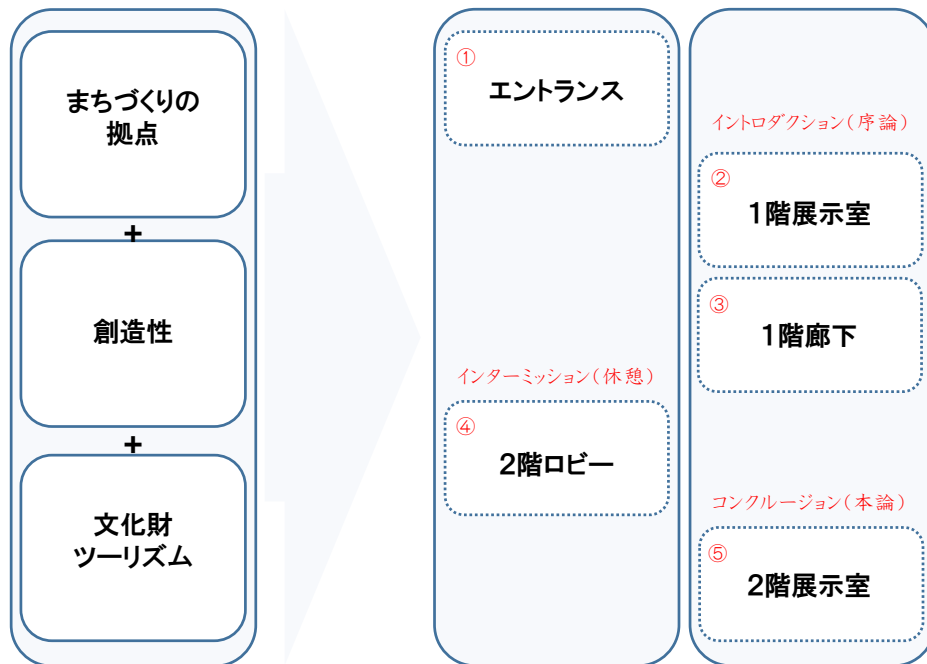
項	作業概要	説明	2016		2017										2018									
			11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6		
1	展示及び内部サイン計画プロジェクト立ち上げ			→																				
2	スケジュール、検討内容策定			→																				
3	第5回検討委員会	スケジュール及び成果物計画の検討及び承認																						
4	展示及び内部サイン概要策定	展示・サインの基本的な計画を策定するための概要案策定 ・展示ハードウェアの概要 ・展示ソフトウェア概要 ・運用概要				→																		
5	第6回検討委員会	H29年6月の展示設計整備発注を行うための概要案の検討及び承認																						
6	展示及び内部サイン仕様案策定	展示・サインの基本的な計画を策定するための仕様案策定 ・展示ハードウェアの詳細 ・展示ソフトウェア詳細 ・運用詳細 入札時の提案に対する評価方法の検討				→																		
7	第7回検討委員会	展示・サインの基本的な計画を策定するための仕様案検討及び承認 入札時の提案に対する評価方法の検討及び承認																						
8	展示設計																							
9	展示品準備																							
10	納品																							
11	リニューアルオープン																							★

2. 検討内容

(1) 展示及び内部サインの前提となる考え方

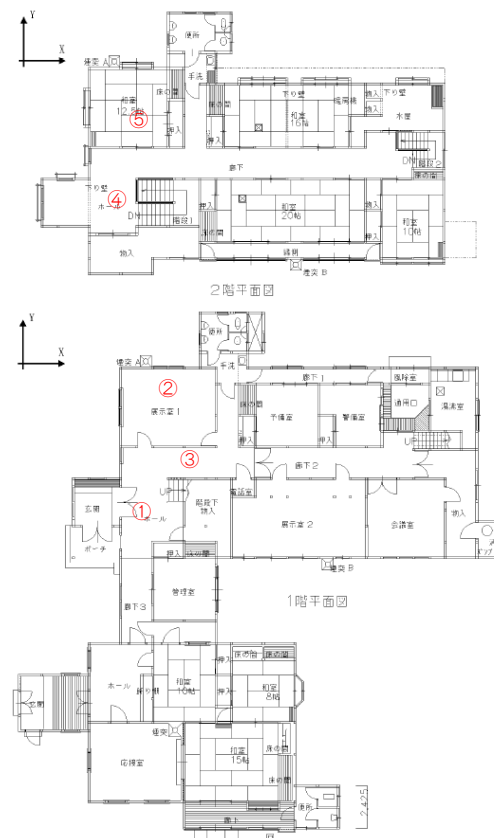
展示・サイン構成案の検討

市民が誇り愛着を持って守り育てる歴史文化観光のまちづくり資源



インフォメーション(案内)

エデュケーション(教育)



2. 検討内容

(2)ハードウェア計画

展示・サイン空間構成の検討

- ①各ブース毎のハードウェアの計画
- ②スペースを有効活用するためのデジタルサインの規格、台数の計画
- ③ネットワーク、電源などのインフラ計画



(3)ソフトウェア計画

展示・サイン手法・演出方法の検討

- ①エデュケーションスペースのイントロダクションからコンクルージョンに至るストーリー計画
- ②インフォメーションスペースでの展示計画
- ③市民参加型のソフトウェア計画
- ④多言語対応計画
- ⑤実現・維持のための運用ソフトウェア構築計画

(4)運用計画

展示・サイン計画資料の作成

- ①展示を継続的に変化させることが可能な運用計画
- ②市民とのかかわりを維持させるための運用計画



3. サインデジタル化に関し、機器・コンテンツの具体例として

(1)インフォメーション①

札幌で開催されるお祭りやイベントの案内

- ①貸しスペースやワークショップの案内
- ②札幌で開催されるお祭りやイベントの案内
よさこいソーラン、雪まつり、北海道神宮祭など
- ③札幌市内の他施設の案内



→ タッチパネルディスプレイなどを利用して多言語での案内

(3)エデュケーション①

当施設の建物や、北海道開拓の歴史及び時代背景などの案内

- ①書物や家具の実物配置+タッチディスプレイでの紹介
- ②札幌・北海道の歴史や風景



※大きな画面に歴史や背景を説明文章と画像で表示

※実際の資料を展示しながら、デジタル化したコンテンツで、詳しい内容を知ることができます

(2)インフォメーション②

過去の貸室イベントの紹介や展示物募集の案内

- ①書初めや写生、感想文などの長きに渡って札幌の歴史を積み重ねる展示品の募集
- ②ワークショップや演奏会などの過去のイベント開催風景の展示

→ 写真や音響を利用した展示



※QRコードを表示させ、スマートフォンでスケジュールや資料のお持ち帰りも可能

(4)エデュケーション②

書物やタブレット端末を貸し出してくつろぎながら、ゆっくりと学ぶ



※資料別にコンテンツを配置、当時の歴史や文化をタブレットで体験することが出来ます



永山邸今後の検討事項

1 指定管理者制度を導入する。その理由。

- 施設の設置目的を効果的に達成するために必要があると認めるときに導入できる。その目的は「経費の節減」と「市民サービスの向上」
- 利用料金の設定や施設の使用許可などの管理権限を委任できる。
- 貸室業務や施設及び公園内での使用許可などを行う際に指定管理者でなければその都度、文化財課又は中央区土木部が許可行為を行わなければならない。
→弾力的、一体的な運営が不可。
- 中央土木と協定を結び、これに基づきそれぞれの業務を行う。

2 入館料は無料とする。

- 当該施設は地域に根差した施設であり、今後はそれをさらに発展させていく必要があると考えている。
- 創成東地区における拠点の一つとなり得るべく、地区全体の歴史や見どころの情報提供を行うため、気軽に立ち寄れるようにする。
- カフェレストランを設置し、地域の方々を中心に、公園利用、貸室利用などをされた方々に何度も利用していただけるようにする。

3 カフェレストランについて→必須の自主事業とする。

- カフェレストランの営業については募集の際に必ず行うべき事業として位置付ける。指定管理の本来業務として位置付けることは困難であるが、必須の自主事業として位置付けることはできる。

4 アドバイザー会議を置く。

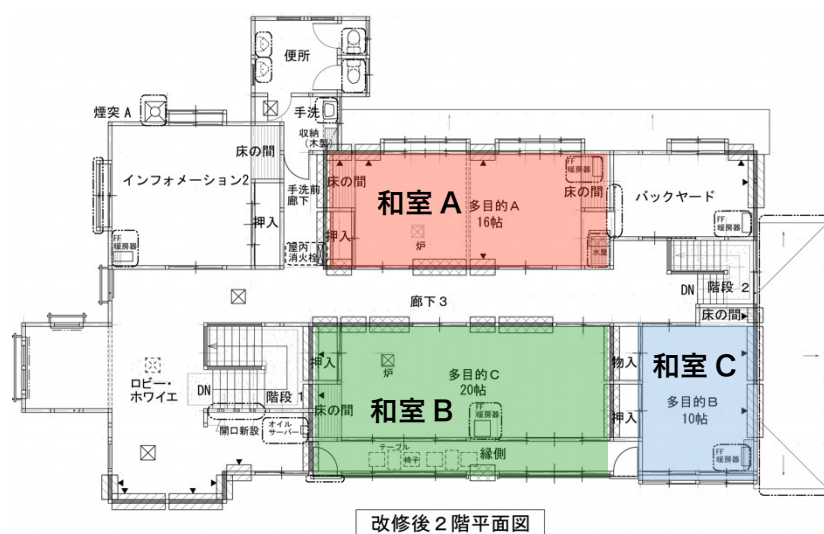
- 現在豊平館においては、委員会での協議事項が管理運営に反映されているか指定管理者や市の担当者が変わっても引き継いでいけるようアドバイザー会議を設置している。永山邸についても同様の状況であると思われるがいかがか。

5 実施可能な魅力的な事業について

- 指定管理者が実施するソフト事業については、指定管理者によるアイデアで行っていくものである。
- しかし、今回のように新たな活用をしていく施設に当たっては、どのようなことができる施設となるのかイメージを内外に示すために、市としても参考事例を準備しておく必要がある。
- 講座、ワークショップ、小会議、会食、お茶会、演奏会、撮影会、お花、週末マーケットなどのほか、公園と一体となった取り組みも検討。

6 貸室は時間単位とする。

- 貸室料金については、市内部の財政や法制など複数の部局との協議を経て決定される。
- 札幌市において使用している「使用料単価算出計算表」に基づき仮に算出したもの。
- その考え方は、施設の建設費、用地費、人件費、物件費に、施設面積、開館日数、開館時間で割りかえした単価を乗じて適正な単価を算出し、それぞれの使用面積に乗じて求めた金額。
- 時間単位は、午前・午後・夜間などの帯貸とするか時間単位とするかを検討。時計台は帯貸、豊平館は時間貸。写真撮影は主に永山邸で行われてきた。お茶は貸室となるスペースで行われていた。どのような利用を想定するかによる。
- 仮に、和室A 700 円、和室B 1,000 円、和室C 500 円と想定する。



7 開館時間は、観覧・貸室・カフェレストランいずれも9時から21時までとする。

- 事業者の収支計算をするうえでの適切な営業時間と周辺環境への配慮のバランスを考える必要がある。
- 地域住民の方々への丁寧な説明と理解を得る必要がある。
- 照明や機械の騒音についてどのような影響があるかシュミレーションする必要がある。

8 永山邸をどのように位置づけるか。→撮影料を導入することなど。

- 利用の多い写真撮影について撮影料を導入するか。(条例で料金設定をするか。) 公園では撮影料を徴収しているところが多い。時計台、豊平館では設定していない。
- 利用が促進されるか、他施設の利用へ流れてしまうか検証が必要か。
- 撮影は永山邸が中心。原則としては観覧が優先されるため、観覧の妨げにならないよう撮影してもらおう(これまで同様)。その際、撮影料は取るが観覧優先というのはいかがか。逆に占有可とすると、平均2-3時間は撮影時間がかかるのでその際観覧不可となる。
- 永山邸でのイベント開催などのことも併せて検討するべき事項か。

地域住民意見交換会の開催（案）

1 開催目的

旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮といった文化財において、リニューアルオープン後に、地域住民や市民が気軽に集い、この施設を育て、創成東地区の新たなまちづくり活動が生まだされていくことを期待し、事業進捗の報告と、活用に向けた意見交換会を行ない、地域住民・市民と、本施設との関係づくりの素地をつくることを目的として開催する。

2 開催日程

今年度は平成 29 年 2 月を予定 1 時間半程度

※次年度も 2 回程度開催を予定

3 募集方法

- ・ 公園ワークショップ参加者へのご案内（土木部さんと調整）
- ・ まちづくりセンターを通して町内会等へのご案内
- ・ 近隣居住者への回覧板による周知
- ・ 地域の活動団体等へのご案内
- ・ 周辺主要施設（保育園、ファクトリーなど）
- ・ 札幌市 HP による広報 など

4 内容（案）

- ① 事業概要（進捗状況・今後のスケジュール）および改修内容・活用方針の報告
- ② 展示計画検討案の紹介
- ③ 活用に向けた意見交換
 - ・ ①、②の説明に対する感想や質問・意見
 - ・ リニューアルオープン後、どのように使ってみたいか など

意見交換の進め方（案）

- ・ 発言者が偏らないようにしつつ、全員で意見を共有することができるよう、①②の説明を聞きながら各自のご意見等をポストイットに記入してもらい（説明後も多少記入時間取る）、それをもとに、全体で参加者全員の意見等を確認しながら意見交換を行う方法などが考えられる。

